むきばんだ弥生体験カード 04

火おこし体験 ～上手に火をおこす秘密～

人は、その進化の歴史の中で、火を使うことで、ひやく的に生活を向上させてきました。いかなる時代においても火は、色々と姿形を代えて、わたし達の暮らしを支えてくれています。

ところで、今のわたし達の暮らしは大変便利になり、電気や、ガス等の石油燃料等を利用して、食物に火を通す、暖をとり明かりをとる等、快適な暮らしをすることができます。そのため実際に火を近くで見ることは少なくなりました。

しかし、みんなのお父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんの子どものころは、火がとても身近なもので、わたし達の暮らしになくてはならないものだったのです。

クイズ

次の火おこしの道具を古いものから順番に並べてみましょう。

①火打ち石　②マッチ　③ライター　④マイギリ　（　　→　　→　　→　　）

では、実際に弥生人たちと同じような方法で、舞錐と火きりうすという道具を使って上手に火をおこしてみましょう。

チャレンジしよう 「火おこし」に挑戦しよう！

【準備】舞錐式火おこし道具、火きり臼、火口（麻ひもをほぐした物）ベニヤ板、ふき竹、火バサミ

❶心棒にひもを巻き付け弓を上下させます。（下に押さえた時に力をぬくと、自然に巻き上げます。）

❷けむりが出だすと少し重くなりますが、ここからが勝負！回転を速めます。

❸回転を止めても白いけむりが出ていれば、火種ができています。

❹火種をそっと火口に移します。

❺優しくつつみます。

❻ふき竹などで息をふきこみます。

❼火おこし成功！

弥生人たちは、このように努力しておこした火を、どんなことに使ったのでしょうか？

予想

豆知識1 弥生時代の遺跡から見つかった火おこし道具

弥生人の火おこしの秘密が鳥取県の青谷上寺地遺跡から見つかっています。それは火きりうすという道具です。この道具のこげたあとから、まさつ熱を利用して火をおこしていたことが明らかになっています。それを復元したものが、「弥生の館むきばんだ」のどこかに展示してあります。探してみましょう。

青谷で出土した火きり臼

写真　鳥取県埋蔵文化財センター提供

豆知識2 舞錐について

火おこし体験でよく使われる「舞錐」という道具は、もともと穴をあける道具として作られたものです。江戸時代に伊勢神宮等の神社で儀式の際に使われたという記録が残っていますが、弥生時代に火おこしに使われたというしょうこはありません。弥生時代の火おこし方法とは異なる可能性が高いですが、まさつ熱を利用した着火法の中では最も効率よく火をおこす方法なのです。

豆知識3 火おこし方法のいろいろ

モミギリ式

ヒモギリ式

ユミギリ式

※みなさん、見事に火がつきましたか？　今日の「火おこし」体験で発見したことやわかったこと等、感想をまとめてみましょう。

クイズの答え…④→①→②→③